

シリーズ学会紹介 その①

文学会運営委員 伊 東 利 勝

愛知大学文学会は、人文社会学の領域に関する学術研究を促進し、その発表を行うことを目的として、1949（昭和24）年に創設されました。豊橋校舎研究館の2階に文学会室を設け、機関紙『文學論叢』、『文學叢書』の刊行、研究会および講演会の開催等を主な事業としております。

構成員の組織はいささか複雑で、おおきく評議員と学生会員からなります。評議員は愛知大学の各学部・短期大学部・大学院に所属する教員のうち人文社会学の領域を専攻する教育職員で、学生会員は、愛知大学文学部の学生全員、大学院文学研究科院生、および愛知大学大学院中国研究科院生の一部です。

学部・大学院横断型であるため、多分野の研究交流を可能とし、個人や共同による研究成果を外部に発信する場を提供していることが文学会の特色です。もちろん他の学内学会に所属する教員や学生に対しても、文学会の行う事業への参加や、受け入れ図書・紀要の閲覧には何ら制限を設けておりません。

『文學論叢』はこれまで136輯、『文學叢書』は13冊を刊行しています。『文學論叢』は、論説のみを掲載し、これに収まりきれないまとまった論文、翻訳などを発表するものが『文學叢書』で、国内のみならず、海外でも出版されています。なかには外国語に翻訳された研究書もあります。これらの出版物は、内外の研究機関350余箇所に対して寄贈し、愛知大学の研究成果として、発信しています。

反対に、国内外に存在する研究教育機関の紀要や研究報告書を受け入れ、これを製本・配架し、広く調査・研究用として閲覧に供しています。年間ざっと550点余紀要や研究論集が到着します。図書館にないものもありますので、いちどたずねてみてください。今後は、図書館のOPACで調べられるようにしたいと計画しております。

公開講演会は、毎年秋に開催し、最前線にいる研究者を講師として迎えております。テーマはだいたい、文学部の専攻を輪番として決定されます。またその年度をもって退職される先生がたによる公開記念講演会も、12月に開いております。ただこのところ、



設立以来受け入れている他研究機関発行の紀要類

こうした講演会に、学生会員の参加が減少しているのが気になります。

講演会ほど大掛かりではありませんが、文学会評議員が企画したワークショップでは、会員に対して通常の講義や演習では得られない知的刺激を提供しています。これは随時開催されますので、掲示に注意しておいてください。また研究分野や関心を同じくする評議員が、独自に研究会を組織し、特定のテーマによる共同研究も行っています。これも会合の案内が掲示されるはずですが、関心がある研究会には、積極的に参加してください。

学生会員が執筆した優秀な卒業論文に対しては、指導教員の推薦により、毎年14本程度を目処に、文学会賞を授与していることをご存知でしょう。受賞者に対しては卒業式で賞状と記念品を授与してこれを表彰し、その梗概を、次年度の『文學論叢』に掲載しております。

文学会賞受賞者の中でその代表者は、卒業式に登壇して、これを受け取るという荣誉に浴することになります。卒業論文を執筆する文学部学生の励みとなっていると思いますが、どうでしょうか。近年では4～5本程度が授賞作品となるにとどまり、卒業論文作成指導の有り方が問われていといっても過言ではありません。

学生諸君は、講演会、ワークショップ、研究会、資料調査など、おおいに文学会を利用してください。